

ENSEMBLE14

2011.10.30 SUN.
DAI-ICHI SEIMEI HALL

18^{TE.} KONZERT

HIDEYUKI TSUJI
MILLENNIUM BACH ENSEMBLE

本日は私共の第18回の演奏会に足をお運び頂きまして誠にありがとうございます。

超一流のプロのオーケストラと一緒に演奏出来るばかりか、オーディションを通過すればアマチュアであるにも拘らずバッハのアリア・レチタティーヴォをソロで歌う事が出来る、というコンセプトで早や12年間で18回の演奏会を開催して参りました。

アマチュアとは言え、これだけのキャリアを積んで参りますと、それぞれにバッハに対して様々な面から研究・リサーチを進め、各自にイメージ・理想的演奏スタイル・テンポなどを抱き始めまして、生意気になって参りました。

指揮者がちょっとテンポを変えただけで「速い！ 遅い！」と怒号が飛び交い、「この前の練習よりは毎秒3~4カウント遅くなっていますが宜しいですか・・・？」なんて嫌味な輩まで出てくる始末です。

怯えながら恐る恐る私にすぎるような目で歌い終えた第1回の頃が懐かしい今日此の頃ですが・・・しかしながら本当に彼らは成長しました。

個人レッスンに通う者、ドイツ語を勉強し直す者、音楽活動を様々に展開し出す者、中にはドイツに海外赴任しちゃう者まで居りまして（あれっ？関係ないかな？）、とにかく彼らのバッハ熱・ドイツ熱は高まるばかりです。かと言っていわゆる「オタク」な訳ではなく、長時間の練習や本番の後には華々しく仲睦まじい宴が催されております。

今となっては私のライフワークをガッチリと支えてくれているアンサンブル14です！
皆さんも一緒に歌いませんか！？
楽しく刺激溢れる世界があなたをお待ちしています！！

Ensemble14 指揮者 辻 秀幸

本日はお忙しい中、私達Ensemble14（アンサンブル・フィアツェン）の演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。団員一同、心より御礼申し上げます。

東日本大震災から半年以上が過ぎました。被災された皆様に改めてお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を願ってやみません。震災直後は私達の団も練習を中止せざるを得ず、不安定な状況の中で、団の活動はこの先どうなるのだろうか、と不安に感じていたことなどを思い出し、こうして演奏会の日を迎えられたことに改めて感謝する次第です。

Ensemble14は、1998年8月に、バッハの『マタイ受難曲』の第2コーラスを歌おうとの呼びかけに応じて誕生したアマチュア合唱団です。以来教会カンタータを中心に、一貫してバッハの声楽作品を歌い続けてきました。

バッハの教会カンタータは200曲ほど現存しますが、Ensemble14ではこれまでに40曲余りを演奏してきました。演奏会で採り上げる曲は、毎回団員が相談して決めるのですが、今のところは一度演奏した曲は除いて選曲していますので、当然回を重ねるごとに候補曲は少なくなっています。また、楽器編成の都合等もあり、どの曲でも自由に組み合わせできるというものでもありません。そうすると、ちょっとこの組み合わせは大変かもしれないけど、でも今回はこれしかない！ということになったりもします。

本日演奏します4曲も、冒頭の合唱が長い上に難しく、実際に歌ってみると想像以上に体力が必要な組み合わせでした。ちょっと（かなり）きついと思いつつ、しかしながら曲の素晴らしさ、少しずつ音楽が見えてくる楽しさに魅せられ、団員は練習に励んで参りました。本日は、独唱曲も含め全曲を団員が演奏いたします。練習の成果を発揮すべく、精一杯演奏したいと思います。

最後になりましたが、笑いに溢れた練習のうちに、真摯で生き活きとした音楽作りへと私たちを導いてくださいます指揮者の辻秀幸先生、バッハ演奏のスペシャリスト揃いでいつも素晴らしい音楽で合唱を支えてくださるMillennium Bach Ensemble（ミレニウム・バッハ・アンサンブル）の皆様、練習でどんな要求にも応えてサポートして下さる練習ピアニストの田城章子先生、そして今回のソリストオーディションで審査員を務めてくださいましたソプラノの山内房子先生に、深く感謝申し上げます。

Ensemble14 代表 室橋 明美

プログラム
Programm

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ
Johann Sebastian Bach (1685-1750)

カンタータ180番

" Schmücke dich, o liebe Seele "
「美しく装いなさい、おお 愛する魂よ」

(2) Tenor 室橋 義明 (3) Sopran 佐藤 かおり (4) Alt 中神 康一
(5) Sopran 子井野 真貴子 (6) Baß 三浦 貴博

カンタータ103番

" Ihr werdet weinen und heulen "
「あなたたちは涙し、そして泣き叫ぶでしょう」

(2) Tenor 羽田 耕太郎 (3) Alt 湊 佳代 (4) Alt 柿原 紀子 (5) Tenor 成田 拓也

～ 休 憩 ～

カンタータ45番

" Es ist dir gesagt, Mensch, was gut ist "
「あなたには告げられています、人よ、何が善い事であるか」

(2) Tenor 中西 隆紀 (3) Tenor 羽田 耕太郎 (4) Baß 武内 崇史
(5) Alt 小田 奈穂子 (6) Alt 濱口 可奈子

カンタータ80番

" Ein feste Burg ist unser Gott "
「私たちの神は堅き砦」

(2) Sopran 菅野 総子/Baß 大内 良太郎 (3) Baß 菅野 松佐登 (4) Sopran 室橋 明美
(6) Tenor 中西 隆紀 (7) Alt 富樫 典子/Tenor 橋元 正美

指揮 辻 秀幸

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声楽 Ensemble 14

■指揮 辻 秀幸

Ensemble14 指揮者。幼少よりヴァイオリン・ピアノ・フルート・金管楽器・作曲を学び、東京芸術大学声楽科及び同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L. グウアリーニ女史、F. タリアヴィーニ、H. リリングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを努め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開し、オペラでは古典から現代に至るまで、数多くの作品に出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・また指揮者として、その活動は常に注目を集めている。現在指導に当たっているアマチュア合唱団は17団体を数える。洗足学園音楽大学客員教授、日本合唱指揮者協会理事、アンサンブル《BWV2001》メンバー、iARTS 理事、NHK ラジオみんなのコーラスレギュラー解説者、ぐるーぷ・なべ幹事。共著に「わかって歌おう - レクイエム発音講座」、「フィガロの結婚 発音講座」等がある。

※ 辻 秀幸 公式サイト <http://www.davide-hide.com/>

■管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニウム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble 14との共演が続いている。

ヴァイオリンI: 大西 律子*	ヴァイオリンII: 磯田 ひろみ	*: コンサートミストレス
ヴィオラ: 吉田 篤	チェロ: 高群 輝夫	コントラバス: 寺田 和正
オーボエI: 岡 北斗	オーボエII: 崎本 絵里菜	イングリッシュホルン(オーボエIII): 多田 敦美
フルートI: 西村 いづみ	フルートII: 三枝 朝子	トランペット: 平井 志郎
ファゴット: 井上 直哉	オルガン: 新妻 由加	

■声楽 Ensemble 14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとでJ.S. バッハのカンタータを歌うアマチュア合唱団。1998年8月結成。ソリストは団内から選出し、プロのオーケストラ(主に現代楽器)と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動。

指揮者	辻 秀幸
練習ピアニスト	田城 草子
代表	室橋 明美
副代表	武内 崇史、小林 尚弘、三浦 貴博、柿原 紀子、佐藤 容司
練習指揮者	木下 剛、小田 奈穂子、室橋 明美

ソプラノ	アルト	テノール	バス
岩倉 ひろみ	小田 奈穂子	笹部 雅人	大内 良太郎
大軒 京子	改田 晶子	佐藤 容司	木下 剛
河野 優子	柿原 紀子	中西 隆紀	小林 尚弘
川村 昌子	片山 薫	成田 拓也	菅野 松佐登
子井野 真貴子	小林 愛子	橋元 正美	武内 崇史
佐藤 かおり	笹部 泉	羽田 耕太郎	次田 章
菅野 総子	竹内 望	室橋 義明	三浦 貴博
原田 篤子	富樫 典子		
湊 佳代	中井 杏瞳		
室橋 明美	中神 康一		
	名倉 芳実		
	濱口 可奈子		

カンタータ第180番「美しく装いなさい、おお 愛する魂よ」

< 三位一体の祝日後第20日曜日のためのカンタータ >

”Schmücke dich, o liebe Seele” BWV180

< Kantate zum 20. Sonntag nach Trinitatis >

カンタータ第180番は1724年10月22日ライプツィヒにて初演された。イエスが「天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている」、「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」と語る聖句（マタイ22,1-14）を題材とし、主の宴に招かれる内容のコラールに基づくコラール・カンタータになっている。

第1曲 コラール合唱（合唱）

ソプラノによってコラール旋律が歌われる。主の訪れを前にして、器楽や合唱は魂を装うような8分音符の連なりで、落ち着いた盛り上がりを見せる。

第2曲 アリア（テノール）

フラウト・トラヴェルソは8分音符ひとつ+16分音符ふたつのリズムがシュヴァイツァーの言う「喜びのモチーフ」になっていて、主を迎える喜びが全面にあふれている。中間部は原曲コラールの「美しい言葉」という歌詞のイメージをふくらませたものである。

第3曲 レチタティーヴォとコラール（ソプラノ）

曲の前半では、レチタティーヴォによって、貴い食事を求める情景へと転換される。続いて、「私」の求めが中心となっているコラールが歌われる。バッハは当時ヴィオロンチェロ・ピッコロという小型チェロを使って、コラールを伴奏させた。

第4曲 レチタティーヴォ（アルト）

神を前にした「恐れ」（Furcht）と「喜び」（Freude）について、順に語られる。

第5曲 アリア（ソプラノ）

原曲コラールで使われた「イエスは、私の命の太陽!」、「心の光」という言葉を中心として、主をひたすら慕う明るい曲調のアリア。

第6曲 レチタティーヴォ（バス）

前曲の「誠実」という言葉から始めて、主の《愛》が歌われる。「心に思うように」（gedenke）という言葉が長いフレーズによって強調され、終曲コラール歌詞の「あなたの愛を正しく見定めさせてください」につながっていく。

第7曲 コラール（合唱）

地上だけでなく、天に行ってから、また主の食事に招いて欲しい、と願うコラール。

1. Chor

Schmücke dich, o liebe Seele,
Laß die dunkle Sündenhöhle,
Komm ans helle Licht gegangen,
Fange herrlich an zu prangen;
Denn der Herr voll Heil und Gnaden
Läßt dich itzt zu Gaste laden.
Der den Himmel kann verwalten,
Will selbst Herberg in dir halten.

1. 合唱

美しく装いなさい、おお 愛する魂よ、
暗い罪の洞穴を離れ、
明るい光のもとに出て来て、
壮麗に光り輝き始めなさい。
救いと恵みに満ちた主が
あなたを今 客人として招いてくださるのですから。
天国を司る方が、
自ら あなたの内に宿を取ろうとなさるのです。

（Johann Franck作のコラール
«Schmücke dich, o liebe Seele» 第1節）

2. Arie(Tenor)

Ermuntre dich: dein Heiland klopft,
ach öffne bald die Herzenspforte!
Ob du gleich in entzückter Lust
nur halb gebrochne Freudenworte
zu deinem Jesu sagen muß.

2. アリア（テノール）

元気を出しなさい、あなたの救い主が扉を叩いています、
ああ、すぐに開きなさい、心の扉を！
たとえ あなたが喜びにうっとりとなったとしても
半ば途切れ途切れの喜びの言葉だけでも
あなたのイエスに伝えなければなりません。

3. Rezitativ&Choral(Sopran)

Wie teuer sind des heiligen Mahles Gaben!
Sie finden ihresgleichen nicht.
Was sonst die Welt
vor kostbar hält,
sind Tand und Eitelkeiten:
ein Gotteskind wünscht diesen Schatz zu haben
und spricht:

3. レチタティーヴォとコラール（ソプラノ）

なんと貴いことでしょう 聖なる食事の贈り物は！
人々は、それに並ぶ物を得ることはありません。
それ以外に、この世で
価値があるとされている物は、
つまらないがらくたに過ぎないのです。
神の子たる者は、この宝物を与えられることを望み
そしてこう言うのです一。

Ach, wie hungert mein Gemüte,
Menschenfreund, nach deiner Güte!
Ach, wie pfleg ich oft mit Tränen
Mich nach dieser Kost zu sehnen!
Ach, wie pfleget mich zu dürsten
Nach dem Trank des Lebensfürsten!
Wünsche stets, daß mein Gebeine
Sich durch Gott mit Gott vereine.

4. Rezitativ(Alt)

Mein Herz fühlt in sich Furcht und Freude;
es wird die Furcht erregt,
wenn es die Hoheit überlegt,
wenn es sich nicht in das Geheimnis findet,
noch durch Vernunft dies hohe Werk ergründet.
Nur Gottes Geist kann durch sein Wort uns lehren,
wie sich allhier die Seelen nähren,
die sich im Glauben zugeschiedet.
Die Freude aber wird gestärket,
wenn sie des Heilands Herz erblickt,
und seiner Liebe Größe merket.

5. Arie(Sopran)

Lebens Sonne, Licht der Sinnen,
Herr, der du mein alles bist.
Du wirst meine Treue sehen
und den Glauben nicht verschmähen,
der noch schwach und furchtsam ist.

6. Rezitativ(Baß)

Herr, laß an mir dein treues Lieben,
so dich vom Himmel abgetrieben,
ja nicht vergeblich sein.
Entzünde du in Liebe meinen Geist,
daß er sich nur nach dem, was himmlisch heißt,
im Glauben lenke
und deiner Liebe stets gedenke.

7. Choral

Jesu, wahres Brot des Lebens,
Hilf, daß ich doch nicht vergebens
Oder mir vielleicht zum Schaden
Sei zu deinem Tisch geladen.
Laß mich durch dies Seelenessen
Deine Liebe recht ermessen,
Daß ich auch, wie jetzt auf Erden,
Mög ein Gast im Himmel werden.

ああ、私の心はどんなに飢えていることでしょう、
人の友たる方よ、あなたの慈しみに！
ああ、私がいつもどれほど涙にくれて
この糧を得たいと望んでいることでしょう！
ああ、私がいつもどんなに渴望していることか、
命の君たる方の飲み物を！
絶えず望んでいるのです、私の身体が
神によって、神とひとつになることを。

(Johann Franck作のコラール
«Schmücke dich, o liebe Seele» 第4節)

4. レチタティーヴォ (アルト)

私の心は その内に怖れと喜びを感じています。
その怖れは呼び起こされます、
心がこの崇高さについて熟慮する時、
自分をその秘跡の中に見つけられず、
なお理性によってこの高き御業を究明しようとする時に。
ただ神の霊だけが、その言葉によって私たちに教えられるのです、
どうやって ここで魂が自らを養っているかを。
それらの魂は 信仰に自らをゆだねているのです。
しかし喜びは強められるのです、
彼らが救い主の心を見つけ
その愛の大きさに気づくなら。

5. アリア (ソプラノ)

命の太陽、心の光、
主よ、あなたは私の全てなのです！
あなたは私の忠実さを目にされて
この信仰をはねつけることはないでしょう、
まだ弱く、不安げなものであっても。

6. レチタティーヴォ (バス)

主よ、私の上にあなたの誠実な愛を留め置いてください、
あなたを天から駆り立てた愛を、
どうか 無駄になさらないでください。
愛で、私の霊を燃え立たせてください、
私の霊が ただ天につらなるものに従って、
信仰の内に自らを導き
あなたの愛を 絶えず心に思うように。

7. コラール

イエスよ、真(まこと)の命のパンである方よ、
助けてください、どうか私がいらずらに
あるいは事によっては自らを損なつたままに、
あなたの食卓に招かれることのないように。
私に この魂の糧によって
あなたの愛を正しく見定めさせてください、
私が、今 地上であるのと同じように
天国においても 客人となれるようにしてください。

(Johann Franck作のコラール
«Schmücke dich, o liebe Seele» 第9節)

カンタータ第103 番「あなたたちは涙し、そして泣き叫ぶでしょう」

<復活祭後第3日曜日のためのカンタータ>

”Ihr werdet weinen und heulen” BWV 103

< Kantate zum Sonntag Jubilate >

カンタータ第103番は1725年の復活祭後4月22日ライブツィヒにて初演された。聖書ではイエスが最後の晩餐にて、自分の死と復活を示唆し、「あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ」と述べる（ヨハネ16,20-23）。悲しみが喜びに変わる、というふたつの激しい感情の切り替わりがテーマとなったカンタータである。

第1曲 合唱

聖書にあるイエスの言葉がそのまま歌詞となっている。合唱では悲しみのフレーズと喜びを表すフレーズが交錯するが、曲全体を支配するピッコロの快活なフレーズは、結局は全てが喜ばしいものであることを示唆している。

第2曲 レチタティーヴォ (テノール)

このレチタティーヴォでは、十字架上の死から復活するまでの間の、イエスの不在を嘆く。“Schmerzen”（痛み）という言葉が引き延ばされて音符に割り振られ、心の痛みが強調される。

第3曲 アリア (アルト)

前曲の「痛み」という言葉から、癒しを求め途方に暮れるアリア。ピッコロのメリスマはこぼれ落ちる涙のような音形となっている。“sterben”（死ぬ）という言葉の長いフレーズから、悲しみに絶望しているさまが伝わる。

第4曲 レチタティーヴォ (アルト)

悲しみから喜びへと情景を転換するレチタティーヴォ。“Freude”（喜び）という言葉によって、悲しみは一気に喜びに変わる。

第5曲 アリア (テノール)

器楽はシュヴァイツァーが言う、8分音符ひとつ+16分音符ふたつによる「喜びのモチーフ」が基調となっており、トランペットが高らかに鳴る。テノールも“Freude”と繰り返し歌い、長大なメリスマで大いに喜びを表現する。

第6曲 コラール

苦しみは喜び、幸福へと変わる、という歌詞は本カンタータのテーマにぴったり重なっている。本曲の旋律はマタイ受難曲BWV244でも登場する（作詞者は異なる）。

1. Chor

Ihr werdet weinen und heulen,
aber die Welt wird sich freuen.
Ihr aber werdet traurig sein.
Doch eure Traurigkeit soll
in Freude verkehret werden.

1. 合唱

あなたたちは涙し、そして泣き叫ぶでしょう、
だが、この世は喜ぶでしょう。
あなたたちは悲しむでしょう、
しかし あなたたちの悲しみは
喜びへと変わります。

（「ヨハネによる福音書」第16章20節）

2. Rezitativ (Tenor)

Wer sollte nicht in Klagen untergehn,
wenn uns der Liebste wird entrissen?
Der Seelen Heil, die Zuflucht kranker Herzen
acht nicht auf unsre Schmerzen.

2. レチタティーヴォ (テノール)

誰が嘆きに沈まずにいられますか？
私たちから この最愛の方が奪われる時に。
魂の救い、病める心の庇護者たる方は
私たちの痛みを顧みてはくださらないのです。

3. Arie (Alt)

Kein Arzt ist außer dir zu finden,
ich suche durch ganz Gilead;
wer heilt die Wunden meiner Sünden,
weil man hier keinen Balsam hat?
Verbirgst du dich, so muß ich sterben.
Erbarme dich, ach, höre doch!
Du suchest ja nicht mein Verderben,
wohlan, so hofft mein Herze noch.

3. アリア (アルト)

あなたの他には医者を見出せません、
私がギレアド中をくまなく探し求めても。
誰が私の罪の傷を癒してくれるでしょう？
ここでは誰も香油を持っていないというのに。
あなたが隠れていらっしゃるなら、私は死ななければなりません。
憐れんでください、ああ、どうか聞いてください！
あなたは決して 私の破滅を求めてはいないはずで、
さればこそ、私の心はまだ希望を持てるのです。

4. Rezitativ (Alt)

Du wirst mich nach der Angst auch wiederum
erquickten;
so will ich mich zu deiner Ankunft schicken,
ich traue dem Verheißungswort,
daß meine Traurigkeit
in Freude soll verkehret werden.

5. Arie (Tenor)

Erholet euch, betrübte Sinnen,
ihr tut euch selber allzu weh.
Laßt von dem traurigen Beginnen,
eh ich in Tränen untergeh.
Mein Jesus läßt sich wieder sehen,
o Freude, der nichts gleichen kann!
Wie wohl ist mir dadurch geschehen,
nimm, nimm mein Herz zum Opfer an!

6. Choral

**Ich hab dich einen Augenblick,
O liebes Kind, verlassen;
Sieh aber, sieh, mit großem Glück
Und Trost ohn alle Maßen
Will ich dir schon die Freudenkron
Aufsetzen und verehren;
Dein kurzes Leid soll sich in Freud
Und ewig Wohl verkehren.**

4. レチタティーヴォ (アルト)

あなたは私を この不安の後には再び
元気づけてくださるでしょう。
ですから私は あなたの到来に備えましょう。
私は約束の言葉を信じています、
私の悲しみを
喜びに変えてくださるという約束を。

5. アリア (テノール)

立ち直りなさい、悲しむ思いよ、
おまえたちは あまりにも自らを傷つけています。
その悲しい企てをやめなさい、
私が涙に沈んでしまう前に。
私のイエスは、再び姿を現してくださいます、
ああ 何にも比べることのできない喜び！
そうならば、私はどれほど幸せなことでしょう、
私の心を取り、捧げ物として受け入れてください！

6. コラール

私はあなたを一瞬、
おお、愛する子よ、見捨ててしまっていた。
だが、見なさい 大きな幸福と
限りない慰めをもって
私は さあ、あなたに喜びの冠を
かぶせ、そして心をこめて贈ろう。
あなたの束の間の苦しみは、喜びに
そして永遠の幸福へと変わるのだ。

(Paul Gerhardt作のコラール

«Barmherzger Vater, höchster Gott» 第9節)

カンタータ第45番「あなたには告げられています、人よ、何が善い事であるか」

<三位一体の祝日後第8日曜日のためのカンタータ>

”Es ist dir gesagt, Mensch, was gut ist” BWV 45 < Kantate zum 8. Sonntag nach Trinitatis >

カンタータ第45番は1726年8月11日ライプツィヒにて初演された。イエスが偽預言者を木になる実に喩え、続けて、天の国には「天の父の御心を行う者だけが入る」と述べた聖句（マタイ7,15-23）を題材としている。主が私たちに求めていることを守る、という抽象的なテーマが本カンタータの各曲に貫かれている。

第1曲 合唱

この曲で主が求めていることが明示される。冒頭からオーボエとヴァイオリンが奏でる音形は、合唱が歌う“fordert”（求める）へと引き継がれる。さらには同じ音形が“Liebe üben”（愛を実践する）という歌詞にも使われる。こうしたつながりから、バッハが重視したのは《愛》であり、それが本曲の軽やかなイメージにつながるように思われる。

第2曲 レチタティーヴォ（テノール）

《私》は主の意志に従った道を歩む、という決意を表明する。

第3曲 アリア（テノール）

曲の前半では神を信じ従順である姿勢が示され、後半では脅されないように正しく振る舞うべき、と歌われる。

第4曲 アリオソ（バス）

聖書にあるイエスの言葉がそのまま歌詞となっている。イエスが不誠実な人々を責めるたび、弦がまるで地獄の炎が暴れるように歌にかぶさってくる。

第5曲 アリア（アルト）

信者が「神を、真に（wahrem）心の底から認める」の中の長いフレーズが「神もまた認めようとされます（bekennen）」のフレーズに模倣されるさまは、両者の歩み寄りを表すのだろうか。

第6曲 レチタティーヴォ（アルト）

主の意志に適った生き方をしているか、《私》は問われているとともに、主は《私》がそう生きるように期待していると歌われる。

第7曲 コラール

主の意志に適った生き方をするために、“Gib”（恵みを与えてください）という言葉が3度も繰り返され、主をよりどころとする立場が強調される。

Erster Teil

1. Chor

Es ist dir gesagt, Mensch, was gut ist
und was der Herr von dir fordert,
nämlich Gottes Wort halten und Liebe üben
und demütig sein vor deinem Gott.

2. Rezitativ (Tenor)

Der Höchste läßt mich seinen Willen wissen
und was ihm wohlgefällt;
er hat sein Wort zur Richtschnur dargestellt,
wornach mein Fuß soll sein geflissen
allzeit einherzugehn
mit Furcht, mit Demut und mit Liebe
als Proben des Gehorsams, den ich übe,
um als ein treuer Knecht dereinsten zu bestehen.

3. Arie (Tenor)

Weiß ich Gottes Rechte,
was ist's, das mir helfen kann,
wenn er mir, als seinem Knechte
fordert scharfe Rechnung an.
Seele, denke dich zu retten,
auf Gehorsam folget Lohn;
Qual und Hohn
drohet deinem Übertreten.

第1部

1. 合唱

あなたには告げられています、人よ、何が善い事であるか、
そして 主があなたに何を求めているのかを。
それはすなわち 神の御言葉を守り、愛を実践し、
そして神の前で謙虚であるという事です。

（「ミカ書」第6章8節）

2. レチタティーヴォ（テノール）

至高者は私にその意志をわからせ、
その御心にかなう事を教えてくださいました。
その方は御言葉を規範として示され、
それに従って 私の足は勤勉に
常に進んで行くべきなのです、
畏れ、謙虚さ、そして愛を
従順さの証として持ちつつ、私は励む、
来たる日に、忠実なしもべとして在れるように。

3. アリア（テノール）

私は神の正しさを知っています、
何が私を助けてくれるのかを、
神が私に 自分のしもべとしての
厳しい義務を求める時に。
魂よ、自分を救うことを考えなさい、
服従の後には報われるということ。
あなたが背けば
責め苦と侮蔑が脅してくるのです。

Zweiter Teil

4. Arioso (Baß)

Es werden viele zu mir sagen an jenem Tage:
Herr, Herr,
haben wir nicht in deinem Namen geweissaget,
haben wir nicht in deinem Namen Teufel ausgetrieben,
haben wir nicht in deinem Namen viel Taten getan?
Denn werde ich ihnen bekennen:
Ich habe euch noch nie erkannt,
weicht alle von mir, ihr Übeltäter!

5. Arie (Alt)

Wer Gott bekennt
aus wahren Herzensgrund,
den will er auch bekennen.
Denn der muß ewig brennen,
der einzig mit dem Mund
ihn Herren nennt.

6. Rezitativ (Alt)

So wird denn Herz und Mund selbst von mir Richter sein,
und Gott will mir den Lohn nach meinem Sinn erteilen:
Trifft nun mein Wandel nicht nach seinen Worten ein,
wer will hernach der Seelen Schaden heilen?
Was mach ich mir denn selber Hindernis?
Des Herren Wille muß geschehen,
doch ist sein Beistand auch gewiß,
daß er sein Werk durch mich mög wohl vollendet sehen.

7. Choral

**Gib, daß ich tu mit Fleiß,
Was mir zu tun gebühret,
Worzu mich dein Befehl
In meinem Stande führet!
Gib, daß ichs tue bald,
Zu der Zeit, da ich soll;
Und wenn ichs tu, so gib,
Daß es gerate wohl!**

第2部

4. アリオソ (バス)

その日には 多くの者が私にこう言うだろう、
「主よ、主よ！
私たちはあなたの名において預言し、
あなたの名において悪魔を追い払い、
あなたの名において 多くの業を行わなかったでしょうか？」
そして、私は彼らにこう告げるだろう、
「私はおまえたちのことなどついぞ知らない。
私から離れよ、不法を行う者たちよ！」
(「マタイによる福音書」第7章22～23節)

5. アリア (アルト)

神を、真に心の底から
認め、信奉する人、
その人を神もまた認めようとされます。
すなわち 永遠に焼かれるべきは、
ただ 口先だけで
神を主と呼ぶ者なのです。

6. レチタティーヴォ (アルト)

そうして心と口は自ら私の裁き手となり、
神は私の心の思いに応じて報いをお与えになるのです。
私の生き方が神の御言葉に合致していなかったら、
誰が後に この魂の傷を癒してくれるでしょう？
一体どうして 私が自らの妨げとなることをするのでしょうか？
主の意志は行われなければなりません。
何があろうと主は必ず助けてくださり、
御業が 私によって十分に果たされるのを
見たいと願っておられるのですから。

7. コラール

**恵みを与えてください、私が勤勉に
自分のなすべき事を行えるように、
また、あなたの命令が
この居場所にあつて私を導いてくださるように！
恵みを与えてください、私がすぐに行えるように
私がなすべき、その時に。
そして 私が行う時、どうか恵みを与えてください、
それがきっと上手くいくように！**

(Johann Heermann作のコラール
«O Gott, du frommer Gott» 第2節)

カンタータ第80番「私たちの神は堅き砦」

< 宗教改革記念日のためのカンタータ >

”Ein feste Burg ist unser Gott” BWV 803

< Kantate zum Reformationsfest >

カンタータ第80番は1724年10月31日の（ルターにちなんだ）宗教改革記念日にライブツィヒにて初演された。もともと1715年ヴァイマールで演奏された曲を改作したものである。また、バッハの死後、その息子がトランペットとティンパニ・パートを書き加えた版も存在する。本カンタータはルター自身が作詩・作曲したコラールを骨格としている。演奏当日の礼拝にも使われたヨハネの黙示録では、終末におけるサタンに対する壮絶な戦いが記されているが、コラールでもこの戦いの場面が踏襲されている。

第1曲 合唱

コラール旋律がフレーズごとにフーガの主題となって順番に出てくる壮大な合唱曲。音楽が盛り上がったところでオーボエがコラール旋律を朗々と鳴らす。

次のコラール節とのつながりで、本曲の歌詞は一見すると悪魔の側が優勢のような形で終わっているが、音楽では終始「神の砦」への信頼が貫かれている。

第2曲 アリア（ソプラノとバス）

ソプラノが歌うコラールでは戦いの情景が描かれているが、その中の「イエス・キリスト」という歌詞に呼応して、「キリストの血」という概念がバスの歌詞に受け継がれる。

第3曲 レチタティーヴォ（バス）

前曲の「キリストの血」という言葉は、「神による大いなる愛」という概念につながる。「キリストの霊があなたと固く結びつくように」と繰り返される。

第4曲 アリア（ソプラノ）

前曲に出てきた「キリストの霊との結び付き」が実現するよう切実に祈る曲。戦いの勝利とは、心の中でイエスと結び付くことである、ということが明確になる。

第5曲 コラール（合唱）

戦いを表現するような管と弦の激しい動きが見られる中で、信仰を通じた勝利への確信が、合唱ユニゾンによる力強いコラール旋律で歌われる。

1. Chor

Ein feste Burg ist unser Gott,
Ein gute Wehr und Waffen;
Er hilft uns frei aus aller Not,
Die uns itzt hat betroffen.
Der alte böse Feind,
Mit Ernst ers itzt meint,
Groß Macht und viel List
Sein grausam Rüstung ist,
Auf Erd ist nicht seinsgleichen.

1. 合唱

私たちの神は堅き砦、
すぐれた守り、すぐれた武器なのです。
神は私たちを全ての苦しみから救い出してください、
私たちが 今も襲う苦しみから。
古くからの邪悪な敵は
今や死にもものぐるいになっています。
大いなる勢力と多くの策略が
彼らの恐ろしい武具であり、
地上には それに並ぶものはないのです。
(Martin Luther作のコラール
«Ein feste Burg ist unser Gott» 第1節)

2. Arie (Baß) & Choral (Sopran)

Alles, was von Gott geboren,
ist zum Siegen auserkoren.

**Mit unser Macht ist nichts getan,
Wir sind gar bald verloren.
Es streit' vor uns der rechte Mann,
Den Gott selbst hat erkoren.**

Wer bei Christi Blutpanier
in der Taufe Treu geschworen,
siegt in Christo für und für.

**Fragst du, wer er ist?
Er heißt Jesus Christ,
Der Herre Zebaoth,
Und ist kein andrer Gott,
Das Feld muß er behalten.**

Alles, was von Gott geboren,
ist zum Siegen auserkoren.

3. Rezitativ (Baß)

Erwäge doch, Kind Gottes, die so große Liebe,
da Jesus sich
mit seinem Blute dir verschriebe,
womit er dich
zum Kriege wider Satans Heer und wider Welt
und Sünde

geworben hat!
Gib nicht in deiner Seele
dem Satan und den Lastern statt!
Laß nicht dein Herz,
den Himmel Gottes auf der Erden,
zur Wüste werden!
Bereue deine Schuld mit Schmerz,
daß Christi Geist mit dir sich fest verbinde!

4. Arie (Sopran)

Komm in mein Herzenshaus,
Herr Jesu, mein Verlangen!
Treib Welt und Satan aus
und laß dein Bild in mir erneuert prangen!
Weg, schnöder Sündengraus!

2. アリア (バス) とコラール (ソプラノ)

全て、神から生まれた者は
勝利へと定められています。

**私たちの力では何もできません、
私たちは たちまち消えてしまうのです。
私たちのために 正しい御方が戦ってくださるのです、
神が自らお選びになった御方が。**

キリストの血の御旗のもと
洗礼において忠誠を誓った者は、
キリストにおいて 永遠に勝利するのです。

**あなたは尋ねるのですか？ その方が誰なのか。
その方の名は イエス・キリスト、
万軍の主であり
神に他ならぬ方、
この戦いの場を彼は護り続けてくださるのです。**

全て、神から生まれた者は
勝利へと定められているのです。

(Martin Luther作のコラール
«Ein feste Burg ist unser Gott» 第2節)

3. レチタティーヴォ (バス)

だがよく考えなさい、神の子よ、この大いなる愛のことを。
イエスは自ら
その血とともに あなたに身を捧げ、
それによってあなたを
サタンの軍勢と、この世と罪に対する戦いに

兵士として募ったのです！
あなたの魂の内で
サタンと悪徳を許してはなりません！
あなたの心、
この地上における神の国を
荒れ地にしてはならないのです！
あなたの罪を 痛みとともに悔やみなさい、
キリストの霊があなたと固く結びつくように！

4. アリア (ソプラノ)

来てください、私の心の家へ
主イエス、私の望みである方よ！
俗なるこの世とサタンを追い払い
あなたの姿を私の内で新たに光り輝かせてください！
消え去りなさい、けがらわしい罪の怖れよ！

5. Choral

Und wenn die Welt voll Teufel wär
Und wollten uns verschlingen,
So fürchten wir uns nicht so sehr,
Es soll uns doch gelingen.
Der Fürst dieser Welt,
Wie saur er sich stellt,
Tut er uns doch nicht,
Das macht, er ist gericht',
Ein Wörtlein kann ihn fällen.

6. Rezitativ (Tenor)

So stehe dann bei Christi blutgefärbten Fahne,
o Seele, fest
und glaube, daß dein Haupt dich nicht verläßt,
ja, daß sein Sieg
auch dir den Weg zu deiner Krone bahne!
Tritt freudig an den Krieg!
Wirst du nur Gottes Wort
so hören als bewahren,
so wird der Feind gezwungen auszufahren,
dein Heiland bleibt dein Hort!

7. Arie (Duett: Alt und Tenor)

Wie selig sind doch die, die Gott im Munde tragen,
doch selger ist das Herz, das ihn im Glauben trägt!
Es bleibet unbesiegt und kann die Feinde schlagen
und wird zuletzt gekrönt, wenn es den Tod erlegt.

8. Choral

Das Wort sie sollen lassen stahn
Und kein Dank dazu haben.
Er ist bei uns wohl auf dem Plan
Mit seinem Geist und Gaben.
Nehmen sie uns den Leib,
Gut, Ehr, Kind und Weib,
Laß fahren dahin,
Sie habens kein Gewinn;
Das Reich muß uns doch bleiben.

5. コラール

たとえ この世が悪魔で満ち
私たちをむさぼり食おうとしても、
私たちは ひどく怖れることはありません、
私たちは きっと勝つに違いないのですから。
この世の領主が
どんなに怒って立ちほだかろうとも、
彼は私たちに何もできはしません。
いずれ 彼は裁きを受け
神の御言葉に打ち倒されるのです。

(Martin Luther作のコラール

«Ein feste Burg ist unser Gott» 第3節)

6. レチタティーヴォ (テノール)

さあ キリストの血に染まった御旗のもとに立ちなさい、
おお 魂よ、しっかりと。
そして信じなさい、あなたの頭領はあなたを見捨てることはない。
そう、その方の勝利が
あなたにも栄冠への道を開いてくれることを！
喜んで戦いへと向かいなさい！
あなたが ただ神の御言葉だけを
そのように聞き、絶えず守っていれば、
敵は逃げ出さざるを得ないでしょう、
あなたの救い主が あなたの守護者であり続けるのです！

7. アリア (アルトとテノールの二重唱)

なんと幸せなのでしょう、神の名を口にすると人は。
しかし、より幸せなのは、神を信仰の内に抱く心です！
その心は打ち負かされることなく、敵を打ち倒し、
ついには勝利の冠を受けるでしょう、死を克服した時に。

8. コラール

人々は御言葉を捨ておいたまま
それに何の感謝もしません。
神は私たちのそばに確かにおられます
その霊と、贈り物と共に。
人々が私たちの身体や、
財産、栄誉、子や妻を取り上げても、
そのまま去らせなさい、
彼らは何の確かな物も得ることはないのです。
しかし、神の国は私たちのもとに確かに在り続けるのです。

(Martin Luther作のコラール

«Ein feste Burg ist unser Gott» 第4節)

※ 歌詞および対訳中の太字部分は、既存コラールの歌詞が用いられている箇所。

楽曲解説：中神 康一 歌詞対訳：室橋 明美

【 Ensemble 14 過去の演奏会 】

- 1999年4月 マタイ受難曲の抜粋演奏（ピアノ伴奏）に、「マタイを歌う会」とともに出演（日本基督教団 奥沢教会）
 1999年9月 第1回演奏会 カンタータ第150番、第155番、第106番（ルーテル市ヶ谷センター）
 2000年4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第2コーラスとして出演（日本基督教団 田園調布教会）
 2000年9月 第2回演奏会 カンタータ第196番、第131番、第182番（神奈川県民ホール 小ホール）
 2001年3月 第3回演奏会 カンタータ第22番、第48番、第23番（すみだトリフォニーホール 小ホール）
 2001年9月 第4回演奏会 カンタータ第1番、第27番、第140番（川口総合文化センター リリア音楽ホール）
 2002年3月 第5回演奏会 カンタータ第36番、第61番、ミサ曲ト短調（三鷹市芸術文化センター 風のホール）
 2002年9月 第6回演奏会 カンタータ第5番、第47番、第70番（四谷区民ホール）
 2003年5月 第7回演奏会 ヨハネ受難曲（津田ホール）
 2004年3月 第8回演奏会 カンタータ第17番、第44番、第139番、モテットBWV227（三鷹市芸術文化センター 風のホール）
 2004年9月 第9回演奏会 カンタータ第4番、第6番、ミサ曲ト長調（横浜みなとみらいホール 小ホール）
 2005年9月 第10回演奏会 マタイ受難曲（日本大学 カザルスホール）
 2006年6月 第11回演奏会 カンタータ第8番、第99番、第105番、第187番（上野学園 石橋メモリアルホール）
 2007年2月 第12回演奏会 サンクトゥスニ長調、カンタータ第10番、マニフィカト変ホ長調（上野学園 石橋メモリアルホール）
 2008年1月 第13回演奏会 カンタータ第116番、第72番、第144番、第104番（津田ホール）
 2008年11月 第14回演奏会 カンタータ第12番、第78番、第147番（川口総合文化センター リリア音楽ホール）
 2009年6月 第15回演奏会 カンタータ第46番、第62番、ミサ曲イ長調（トッパンホール）
 2010年7月 第16回演奏会 ミサ曲ト短調（紀尾井ホール）
 2011年2月 第17回演奏会 カンタータ第37番、第66番、第93番、第179番（津田ホール）

【 次回演奏会ご案内 】

第19回演奏会

2012年7月1日(日) 川崎市高津市民館大ホール

J.S. バッハ作曲 カンタータ第3番、第96番、第113番

Ensemble 14 では一緒に歌ってくださる方を随時募集しております。
 バッハが大好きな方はもちろん、バッハが初めての方も歓迎です。

合唱指導 : 辻 秀幸 先生
 練習日 : 毎週土曜日（午前または午後）
 練習場所 : 自由が丘、武蔵小杉など
 お問い合わせ : Tel : 090-3816-2565（小林）
 e-mail : info@ensemble14.org
 ホームページ : <http://www.ensemble14.org/>

Ensemble 14 第18回 演奏会プログラム

発行日 : 2011年10月30日

発行元 : Ensemble 14

●無断転載・複製を禁じます。

©All rights reserved Ensemble 14

後援 
日本合唱指揮者協会